

年頭挨拶

北海道開発局長

橋 本 幸



明けましておめでとうございます。謹んで、新年のお喜びを申し上げます。

年頭にあたり、本年の主な取組について申し上げます。

1つ目は、次期北海道総合開発計画策定の検討です。

昨年度、第8期北海道総合開発計画（以下、「8期計画」という。）は中間点検を終えて折り返しを迎えました。この間発生した新型コロナウイルス感染症は、我が国と北海道の社会・経済にもきわめて大きなダメージを与えました。

また、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた国の方針が打ち出され、脱炭素化やデジタルトランスフォーメーションに向けた施策が始まるなど、我が国と北海道をとりまく情勢は、大きく変化しております。

北海道開発行政についても、2050年の長期を見据え新たな北海道総合開発計画の策定に向けた検討を始めることが決定されたところですが、引き続き、着実に8期計画を推進しながら、我が国の発展や直面する課題解決に貢献できるよう、新たな北海道総合開発計画の策定に向けた検討に参画してまいります。

2つ目は、^{きょうじん}強靱で持続可能な国土の形成です。

防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策では、取組の更なる加速化・深化を図るとしており、関係機関等と連携しながら、インフラ施設等の耐震・津波対策、老朽化対策を推進してまいります。

なお、北海道胆振東部地震等の被災地の早期復興に

ついても、引き続き支援を行ってまいります。

また、建設業等の働き方改革も重要です。

社会インフラの整備・維持管理や災害対応に重要な役割を担っている建設業等については、生産年齢人口が減少する中、その担い手の確保・育成に向けて働き方改革が急務です。「新・担い手3法」もしっかりと踏まえ、週休2日確保の促進、i-Construction等による生産性向上など、建設業等の働き方改革に一層取り組んでまいります。

さらに、「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」等を通じたアイヌ文化の復興・発展及び国民理解への取組も促進します。

今後も、国内外から多くの人々がウポポイを訪れ、アイヌ文化の素晴らしさを体験し、民族共生の理念に共感していただけるよう、魅力的なプログラムを充実するための支援を積極的に実施していきます。

この他の諸施策も、関係機関等と必要な連携をしながら進めてまいります。

最後に、上記の施策等の推進に当たり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と社会経済活動の維持・再生の両立という視点をしっかり踏まえ、早期発注など事業の的確な執行を図るよう、北海道開発局は引き続き使命を果たしていきます。末筆になりましたが、皆様方のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。